

Revisiting Romans 1-5

Pastor Bob Shirock

ローマ人への手紙 1-5 章の復習

ボブ・シャイロック牧師

ローマ人への手紙 1 : 18-23

1:18 神の怒りは、不義をもって真理をはばもうとする人間のあらゆる不信心と不義とに対し、天から啓示される。1:19 なぜなら、神について知りうる事からは、彼らには明らかであり、神がそれを彼らに明らかにされたのである。1:20 神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。1:21 なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。1:22 彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、1:23 不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである。

真の問題は、唯一の真の創造主なる神を拒絶することです。他のすべての問題は、その支流に過ぎない。「神は彼らを引き渡された」(1:24、26、28)。

ローマ人への手紙 2 : 1-2

2:1 だから、ああ、すべて人をさばく者よ。あなたには弁解の余地がない。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めている。さばくあなたも、同じことを行っているからである。2:2 わたしたちは、神のさばきが、このような事を行う者どもの上に正しく下ることを、知っている。

信仰を持つ人は「神を信じている」かもしれませんが、それでもなお、彼らの人生は神の道から外れた心を明らかにしています。

ローマ人への手紙 3 : 9-18

3:9 すると、どうなるのか。わたしたちには何かまさったところがあるのか。絶対がない。ユダヤ人もギリシヤ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した。3:10 次のように書いてある、「義人はいない、ひとりもない。3:11 悟りのある人はいない、神を求める人はいない。3:12 すべての人は迷い出て、ことごとく無益なものになっている。善を行う者はいない、ひとりもない。3:13 彼らののどは、開いた墓であり、彼らは、その舌で人を欺き、彼らのくちびるには、まむしの毒があり、3:14 彼らの口は、のろいと苦い言

葉とで満ちている。3:15 彼らの足は、血を流すのに速く、3:16 彼らの道には、破壊と悲惨とがある。3:17 そして、彼らは平和の道を知らない。3:18 彼らの目の前には、神に対する恐れがない」。

最終的な審判においては、神の基準に従って生きている人は存在しません。

ローマ 3 : 21-25

3:21 しかし今や、神の義が、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされて、現された。3:22 それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。3:23 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、3:24 彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。3:25 神はこのキリストを立てて、その血による、信仰をもって受くべきあがないの供え物とされた。

神の解決策 :

「無罪」と宣告してくださる機会を提供してくださる。

どうやって？

イエス・キリストに、私たちの罪の罰を支払うことをお許しになることによって。イエス様は私たちの身代わりとなって、私たちの罪を贖ってくださったのです。

ローマ人への手紙 3 : 27-30

3:27 すると、どこにわたしたちの誇があるのか。全くない。なんの法則によってか。行いの法則によってか。そうではなく、信仰の法則によってである。3:28 わたしたちは、こう思う。人が義とされるのは、律法の行いによるのではなく、信仰によるのである。3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神であろうか。また、異邦人の神であるのではないか。確かに、異邦人の神でもある。3:30 まことに、神は唯一であって、割礼のある者を信仰によって義とし、また、無割礼の者をも信仰のゆえに義とされるのである。

ですから、天国には誇りは存在しない。私たちをそこに導くのは、良い行いではなく、ただキリストへの信仰（信頼）のみだからです。

ローマ人への手紙 4 : 1-3

4:1 それでは、肉によるわたしたちの先祖アブラハムの場合については、なんと言ったらよいか。4:2 もしアブラハムが、その行いによって義とされたのであれば、彼は誇ることができ

よう。しかし、神のみまえでは、できない。4:3 なぜなら、聖書はなんと言っているか、「アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた」とある。

ローマ人への手紙 4 : 6-8

4:6 ダビデもまた、行いがなくても神に義と認められた人の幸福について、次のように言っている、4:7 「不法をゆるされ、罪をおおわれた人たちは、さいわいである。

4:8 罪を主に認められない人は、さいわいである」。

アブラハムやダビデの様な旧約の英雄たちもまた、善行によってではなく、彼らの信仰（信頼）を神の慈悲深いご性質に置くことによって、同様に「神に義」と認められました。

5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている（5 : 1）。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる（5 : 2）。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、5:4 忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからであ（5 : 3 - 5）。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである（5 : 5）。

5:6 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さったのである。5:7 正しい人のために死ぬ者は、ほとんどいないであろう。善人のためには、進んで死ぬ者もあるいはいるであろう。5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである（5 : 6 - 8）。

5:9 わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によって神の怒りから救われるであろう。5:10 もし、わたしたちが敵であった時でさえ、御子の死によって神との和解を受けたとすれば、和解を受けている今は、なおさら、彼のいのちによって救われるであろう（5 : 9, 10）。

5:11 そればかりではなく、わたしたちは、今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである（5 : 11）。